

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11881

研究課題名（和文）訪日外国人旅行者との対話モデルの構築：対話原理に基づく意味共有と価値創造の体系化

研究課題名（英文）Towards a Construction of a Dialogic Model with Inbound Tourists

研究代表者

高梨 博子（TAKANASHI, Hiroko）

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：80551887

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：欧州・アジア・オセアニア及び国内の一部の都市で行ったフィールドワークにおけるホストとインバウンド旅行者との対話的交流を観察し、バフチンの対話原理やスタンス理論、都市のガバナンスなどの関連理論を発展的に活用して、地域のアイデンティティ形成の特性と共有のプロセスに関する学術的な特徴把握を行った。地域アイデンティティが創造・共有されるプロセス、また出会いからの時間的推移とともに深化する参与者たちの関係性やスタンスの変化、およびその特徴を把握することにより、地域における観光関係主体の意識醸成や政策的な取組みの推進に資する分析を行い、著作や論文を通じた発信を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

変化の著しいインバウンド観光につき、学術的枠組みの下、国内外の都市のフィールドワークを通じて、マルチモーダルな表現・心理的な面からの対応のあり方を解析して示唆をまとめた社会言語学、観光人類学、社会基盤学等を横断する学際的かつ創造的な研究として位置づけられる。「対話の高質化」に向け、関係分野間での有機的な結びつきの進展により、地域における観光関係主体の意識醸成や基盤の改善に寄与するとともに、地域のアイデンティティ形成の特性と共有のプロセスにつき、学術的な整理と特徴把握を行うことにより、インバウンド旅行者とホストの対話的交流の実態を明らかにするとともに、政策的な取組みの推進に資するものである。

研究成果の概要（英文）：Inbound communication can create new values through dialogue between hosts and inbound tourists. This study analyzed the characteristics of regional identity and its construction process in interaction from practical and interdisciplinary perspectives through the case studies of some tourists visiting cities in Europe, Oceania, and Asia, including Japan. As the theoretical and methodological frameworks, we drew on the Bakhtinian notion of dialogism and some sociological and anthropological concepts, such as the constructionist view of identity. The research revealed how regional identity is intersubjectively created through the analysis of 1) dialogic interaction and its resulting resonance, and 2) alignment of participants' stancetaking. We disseminated our research results through conference presentations and academic papers, which can raise awareness of tourism-related entities for offering a better tourism experience.

研究分野：社会言語学

キーワード：インバウンド観光 対話的交流 問主観性 都市の進化 アイデンティティ ボランティア活動

1. 研究開始当初の背景

(1) 訪日外国人旅行者の多くは日本人とのコミュニケーションに困難を感じており(観光庁2017など)、日本は2020年に開催予定だった東京オリンピックに向けて、ことば・心理・表現・雰囲気などのコミュニケーション基盤の充実が重要な状況にあった。この状況に対する日本の取組みとしては、語学力の向上や多言語化、丁寧かつきめ細やかな情報提供に力点が置かれていたが、相手方の心理や期待感も踏まえた根本的な対応のあり方を分析・総括していくことが課題であるとの考えをもとに研究を開始した。

(2) 観光コミュニケーションの在り方を探るにあたり、訪日外国人旅行者との接触において、言語・非言語を含むコミュニケーションの特性は何か、相対的かつ間主観的に形成される動的な対話行為の特質を踏まえ、どのように「対話力の強化」を図っていくべきか、という2つのリサーチ・クエスチョンを設定した。

(3) これらの問いを解明するために、文学・心理学・言語学の領域横断的かつ独創的な発想で論考を体系化したミハイル・パフチン(1895~1975)の対話原理を発展的に活用し、対話における意味共有と価値形成の構造を明らかにすることにより、日本人が訪日外国人旅行者に接する際の言語・非言語のコミュニケーション能力の強化に資することとした。

2. 研究の目的

(1) 近年、訪日外国人旅行者の旅行態様は、行き先(大都市だけでなく地方など)や形態(体験型の観光など)において多様化が進んでいる。そのような中、未知かつ非日常的な経験に期待を寄せる一方で、多くの旅行者は現地での対話にストレスを感じており、ことばや心理などのソフト面を含めたコミュニケーション基盤の充実が課題となっている。

(2) こうした状況を踏まえ、本研究は、「訪日外国人旅行者との対話」に関して、パフチンの対話原理、デュボワのスタンス理論、ゴフマンの対人関係についての理論などを発展的に活用しながら、対話の本質に関わる「意味の共有」と「価値の創造」の構造を解析・体系化し、日本の外国人旅行者への対応における「対話力の向上」に資することを目的とした。

(3) ミクロの対話行為とその響鳴現象を通じて地域アイデンティティが創造・共有される態様、また、出会いからの相互行為のプロセスにおける参与者間の位置づけやスタンスの変化、およびその特徴を示すことにより、地域における観光関係主体の意識醸成や基盤の改善、政策的な取組みの推進に寄与することとした。

(4) これらの分析を通じて、観光客との対話力の質的向上と相互理解の深化のあり方や、ボランティア活動を含めた地域協働によるサービス向上の基盤構築のあり方をとりまとめ、国内外の学会等での発表や意見交換、シンポジウムの開催などを通じて、大学・政府・自治体等の関係者に向けて発信することとした。

3. 研究の方法

(1) 旅行者対応の実態を客観的にとらえるため、日本と海外での対応の比較分析を行うこととし、国内の観光都市とともに、欧米やアジアなどの多様な国から観光客が訪問する地方都市の観光地でエスノグラフィーの参与観察によるフィールドワークを実施した。

(2) 本科研課題以前にも日米においてフィールドワークの実績があるが、本課題では国内外での調査拠点を拡充して、国別等の類型による旅行者のデータを蓄積・分析した。調査においては、観光場面の相互行為の観察・記述や、外国人が旅行に求める価値・嗜好・期待に関するヒアリングおよび文献調査とあわせ、外国人の情報共有は対話や口コミだけでなく通信媒体でも広く行われることから、情報共有手段の特性にも着目した。

(3) 「異国の凝縮された時空間における、異質な他者との関わり」という対話の特質をとらえ、エスノグラフィーの手法によるフィールドワークを国内外において実施し、旅行者対応の実態を比較分析した。フィールドワークでの音声・映像データ取得にあたっては、短時間での接触という特質も踏まえ、研究代表者の所属機関の倫理規定に則り十分な配慮を行った。

4. 研究成果

(1) インバウンド・コミュニケーションは、異質な他者である旅行者との対話を通じて新たな価値が創出される機会である。パフチンの対話原理やゴフマンの社会学等の理論、エスノグラフィーの手法を発展的に活用し、日本を含むアジア・欧州・オセアニアの一部の観光都市におけるインバウンド旅行者との対話的交流の観察から、地域のアイデンティティ形成の特性と共有のプロセスにつき、学術的な整理と特徴把握を行った。

(2) 欧米やアジアなどの多様な国から観光客が訪問する観光地の自治体・観光当局(Budapest Festival & Tourism Center、Vienna Tourist Board、Bologna Welcome、Visit Berlin、Dresden Marketing Board、City of Leipzig、Paha City Tourism等)のほか、インバウンド旅行者やガイドとも意見交換を行った。また学会および大学(カルフォルニア大学サンタバーバラ校、オーランド大学等)、関係自治体・機関(観光庁、国連世界観光機関、国土交通省近畿運輸局・

中国運輸局、京都府・京都市、奈良県・奈良市、野田市、鎌倉市等）さらに、日本ではじめての開催となる国連世界観光機関等の主催によるガストロノミーツーリズム国際フォーラム(2022年12月、奈良)において、同フォーラム主催のフィールドワーク参加等を含め、海外からの行政・企業関係者とも意見交換を行った。

(3) 対話の時間的進展と響鳴の面では、初対面からの推移は国内外の都市においてそれぞれ異なるが、時間の経過の中で対話を通じた話題の派生・響鳴や時空の異なる経験開示によるきっかけづくりにより、認識や感情のスタンスが創発し、ポリフォニー的な「声」の多重化やクロノトポス的な地域への印象づけが行われていることを確認した。対話による響鳴と創造的なやりとりを通じて対話者間で理解が深まり、観光地域のアイデンティティがアップデートされ、「地域らしさ」のコンセプトの外装の明確化や進化がもたらされていた。また、ユーモアやジョークについては、海外の一部の都市ではスタッフと旅行者の双方から、国内都市のケースでは主として旅行者側から活発に発出されていることを確認した。

(4) 対話における旅行者とスタッフの関係性の面では、欧州やオセアニアの都市では、対話場面でのホスト・ゲストの画一的な役割にとらわれない個と個のふれあいとして、マルチモーダルな表現要素の活用による柔軟な対応を確認した。他方、国内及びアジアの一部の都市のケースでは、主として旅行者からの反応や能動的行為による会話の進展を確認した。

これらの調査結果から、(5)～(8)の内容がよりよい観光経験の創出のために求められると考えられる。

(5) 地域アイデンティティの戦略的発現に関しては、個々の対話における実践的な蓄積を重ねていくことが有効である。現場レベルでは、国際交流経験の長い国内外都市・地域等に比しての類似・相違点の認識や取り組みからの発見とあわせ、発地国・属性・旅行形態・旅行特性等を踏まえた観察と類型化を重ね、ボランティア間、また現場や自治体との間で共有していくことが重要である。また、訪日外国人の国籍・旅行形態の変化やリピーターの増加等の多様化がアイデンティティの深化や都市・地域の活性化・成長の促進に寄与しうることを鑑みても、対話の機会や空間を提供することに加えて、応接主体間での情報共有の充実が重要である。

(6) 地域の文化環境は変遷・進化していくものであり、観光客が地域の伝統や風習、規範や価値観、思考様式などへの理解を深めたいと望む中で、地域のアイデンティティを創造しつつ、現場から発信していくことも求められる。また、コミュニケーションの質的充実には、インバウンド旅行者の思いやニーズを把握し、ゲストとホストの双方からの接近の意欲が大切であり、ポジティブなフィードバックのメカニズム生成につながる。これを効果的に起動させるためには、受け身あるいはマニュアル的な姿勢、相互の役割が固定化された対応ではなく、ポーロニャの例にみられたように、日本においても個人が垣間見られる素の姿での対話を含め、自発的かつ柔軟な対応が必要である。

(7) ウォーキングツアーのような「地元とのふれあい」は、観察都市では個々の取り組みベースで開拓されており、一部の国内都市では、学生ガイドが英語サークルと連携して活動している。自治体とボランティアとの間、また、ボランティア間でのネットワークを充実させ、訪日外国人と一定の時間「対話によってふれあう」ことのできるプログラムづくりが期待される。

(8) 対話における「多様かつ多面的な価値形成の構造」の体系化にあたっては、類型分析の蓄積が求められ、旅行者の発地や属性・旅行形態、都市・地方部といった訪問先等で観察・類型化を重ねていくことが必要とされる。また、コミュニケーションの柔軟化・高質化に向け、インバウンド旅行者のニーズ把握や対応における顧客評価の蓄積により旅行者の期待を踏まえたうえで、ユーモアや感情表現などにより多様な姿が表出される工夫の促進が期待される。

(9) 研究成果については、対話的交流や都市アイデンティティの構造分析に関する研究結果をとりまとめ、国内外の学会で発表したほか、国際雑誌を含む学術雑誌や、海外の出版社を含む叢書論文として公表した。また、観光主体への還元として、小田原・箱根 SGG クラブに2019年12月および2023年1月に講演を行い、ボランティアガイドたちと意見交換も行った。このほか、2019年3月には、交通・観光関係の総合的なシンクタンクである(一財)運輸総合研究所でセミナーを開催し、小田原・箱根 SGG クラブと日本政府観光局(JNTO)とともに発表した。本セミナーには、大学等の研究機関、国土交通省、地方公共団体、観光関係者、鉄道ほか交通事業者、コンサルタントなどから110名を超える参加者があり、活発な質疑応答・意見交換が行われ、幅広い関係者への啓発・情報発信を行った。セミナーの概要は同研究所のホームページで公開された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 中野宏幸・高梨博子	4. 巻 36
2. 論文標題 外国人旅行者へのガイドツアーや応接におけるユーモアのある対話の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第36回日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 121-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Nakano and Hiroko Takanashi	4. 巻 12
2. 論文標題 The interactive creation of local identity in tourist visiting cities: A comparative study of Nara, Bologna, and Santa Barbara	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中野宏幸・高梨博子	4. 巻 22
2. 論文標題 第59回運輸政策セミナー「インバウンド観光と対話・コミュニケーション」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸政策研究	6. 最初と最後の頁 157-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高梨博子	4. 巻 -
2. 論文標題 観光の詩的パフォーマンス：日米欧の都市の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知大学人文社会学研究所主催シンポジウム報告書『ことばの詩 生活の詩 社会の詩 日常の中のポエティクス』	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中野宏幸・高梨博子	4. 巻 62
2. 論文標題 日米アジアの観光都市におけるインバウンド旅行者との対話的交流による地域アイデンティティの形成に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 交通学研究	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32238/koutsugakkai.62.0_69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野宏幸・高梨博子	4. 巻 35
2. 論文標題 対話原理に基づくインバウンドディスコースにおける視座の分析 ボランティアガイド活動におけるホストとゲストの行動に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第35回日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 129-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Nakano and Hiroko Takanashi	4. 巻 14
2. 論文標題 Dialogic formation of tourism strategies in urban renaissance cities: Implications from cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies	6. 最初と最後の頁 1253-1269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11175/easts.14.1253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroko Takanashi	4. 巻 7
2. 論文標題 Language reproduction and coordinated agency through resonant play	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 East Asian Pragmatics	6. 最初と最後の頁 395-423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/eap.23676	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野宏幸・高梨博子	4. 巻 37
2. 論文標題 クロノトボスの概念の活用による都市形成と対話的交流の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第37回日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 271-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Hiroko Takanashi
2. 発表標題 Poetic performance in walking tour discourse
3. 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroyuki Nakano and Hiroko Takanashi
2. 発表標題 The dialogic formation of tourism strategies in urban renaissance cities
3. 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高梨博子・中野宏幸
2. 発表標題 渋沢栄一にみる異文化接触とコミュニケーション
3. 学会等名 日本国際観光学会第25回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野宏幸・高梨博子
2. 発表標題 外国人旅行者へのガイドツアーや応接におけるユーモアのある対話の分析
3. 学会等名 第36回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野宏幸・高梨博子
2. 発表標題 対話原理に基づくインバウンドディスコースにおける視座の分析ーボランティアガイド活動におけるホストとゲストの行動に着目してー
3. 学会等名 第35回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroko Takanashi
2. 発表標題 Emergent parallelism in walking tour discourse with international tourists
3. 学会等名 The 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki Nakano and Hiroko Takanashi
2. 発表標題 The interactive creation of local identity in tourist visiting cities: A comparative study of Nara, Bologna, and Santa Barbara
3. 学会等名 The 13th International Conference of the Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野宏幸・高梨博子
2. 発表標題 観光地域のアイデンティティのミクロ的基礎とマクロとの相互循環 海外都市の「街の再発見のアプローチ」に着目して
3. 学会等名 日本交通学会 第78回研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高梨博子
2. 発表標題 観光場面の対話におけるスタンス行為
3. 学会等名 日本英語学会第37回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroko Takanashi
2. 発表標題 Dialogic engagement in tourism: The constitution of hybrid identities
3. 学会等名 The 22nd Sociolinguistics Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroko Takanashi
2. 発表標題 Stance as dialogic practice of chronotope in tourism
3. 学会等名 The 2nd International Conference on Sociolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高梨博子
2. 発表標題 インバウンド旅行者とのauthenticな対話的交流に向けて
3. 学会等名 日本国際観光学会第22回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中野宏幸・高梨博子
2. 発表標題 日米アジアの観光都市におけるインバウンド旅行者との対話的交流による地域アイデンティティの形成に関する研究
3. 学会等名 日本交通学会 第77回研究報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中野宏幸・高梨博子
2. 発表標題 クロノトポスの概念の活用による都市形成と対話的交流の分析
3. 学会等名 第37回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroko Takanashi
2. 発表標題 The interactional performance and authentication of tourism experience
3. 学会等名 The 3rd International Conference on Sociolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Hiroko Takanashi, Shuang Gao, Bal Krishna Sharma, Xiaoxiao Chen, Jayson Parba, Tomoaki Morikawa, Kristen Urada, Lin Chen, Kathleen Griffin, Michaela Nuesser, Christina Higgins, Gilles Baro, Adam Wilson, Gavin Lamb, Larissa Semiramis Schedel, Alexandre Duchene	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 271
3. 書名 Language and intercultural communication in tourism (Contribution: Chapter 10. Emergent stance in walking tour discourse in Nara: The intersubjective construction of interculturality)	
1. 著者名 高梨博子、早瀬尚子、大橋浩、佐藤恵、尾谷昌則、松井智子、深田智、小島隆次、堀内ふみ野、中山俊秀、西田光一、吉川正人、加藤重広	4. 発行年 2020年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 292
3. 書名 『動的語用論の構築へ向けて 第2巻』(分担執筆: 第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのプレイから」)	
1. 著者名 Hiroko Takanashi, Risako Ide, Kaori Hata, Kuniyoshi Kataoka, Cynthia Dickel Dunn, Takako Okamoto, Makiko Takekuro, Masataka Yamaguchi, Chiho Sunakawa, Cade Bushnell, Augustin Lefebvre, Lindsay Yotsukura, Patricia J. Wetzel	4. 発行年 2020年
2. 出版社 John Benjamins	5. 総ページ数 291
3. 書名 Bonding through context (Contribution: Chapter 11. Playful naming in playful framing: The intertextual emergence of neologism)	
1. 著者名 Hiroko Takanashi, Jacob Thogersen, Anna Mauranen, Jacques Moeschler, William O. Beeman, Claudia Strey, Louisa Willoughby, Ling Zhou, Manfred Bierwisch, Janus Mortensen, Nikolas Coupland, Zane Goebel, Louisa Willoughby	4. 発行年 2018年
2. 出版社 John Benjamins	5. 総ページ数 285
3. 書名 Handbook of pragmatics: 21st annual installment (Contribution: Stance)	

1. 著者名 高梨博子、片岡邦好、浅井優一、山口征孝、古川敏明、井出里咲子、梶丸岳、武黒麻紀子、榎本剛士	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 289
3. 書名 『ポエティクスの新展開』（分担執筆：第6章「観光のエスノポエティクス 並行性と響鳴による詩的実践」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<ul style="list-style-type: none"> ・「ことばの創造性と話し手の行為主体性 言語形式と共感の響鳴をめぐって」オンラインシンポジウム Formulaicity in Interaction 2023「定型性から出発するアプローチが、言語研究のありかたをどう変えるか」、2023 ・「国内外都市における観光の取組 対話を通じた都市の魅力の創出」小田原・箱根SGGクラブ1月例会研修会、2023（招待講演） ・「相互行為における発話末の「～たりして」 遊びのスタンス標識としてのgeneral extender」「日常の相互行為における定型性：話しことばを基盤とした言語構造モデルの構築」国際シンポジウム、2022 ・「遊びの相互行為における言葉の共創 定型性と新奇性の観点から」「日常の相互行為における定型性：話しことばを基盤とした言語構造モデルの構築」国際シンポジウム、2021 ・「インバウンド旅行者との対話・コミュニケーション：共感、そして、楽しみの創出」小田原・箱根SGGクラブ12月例会研修会、2019（招待講演） ・「観光の詩的パフォーマンス：日米欧の都市の事例から」愛知大学人文社会学研究所シンポジウム、2019 ・「対話から見た「観光地のアイデンティティ」-インバウンド旅行者とのウォーキングツアーからのメッセージ」第59回運輸政策セミナー、2019

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中野 宏幸 (NAKANO Hiroyuki)	京都産業大学・文化学部・教授 (34304)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------